

凌と可相成候深心配致間敷候早速返事可出処年取用意当年殊之  
外心配にて夫ニのミ心傾□存延引致候必竟金子融通ニ而米価尙  
駄上米ニ而三円貳拾錢下米ニテ円八十錢迄ニ下落漸過る廿日  
頃ニ至リ上ニテ三拾錢計上リ候此通年越ても格別之上りなくハ  
来年ハ半年ならて相続可成計算ニは殆困却ニ候委敷追而取調可  
差遣候乍延行前書之返事申入候おのちおなみエも宜可申伝候以  
上

十二月三十一日

長閑

武夫殿

70 (明治14年) 12月31日 菊池長閑

此間お多代容体報知有之元より難病とハ存候得共申越之程とハ  
不存居候兎角池田之得療治候験も相見得着後も形容も好く病も  
登之頃よりハ余程縮り候趣医者も申居候間先此通ならハ夏迄ハ